



# 滋賀県 景況調査結果報告書

2020年度第4四半期  
(2021年1～3月)

## 目次

I.調査結果.....	2
II.今期の状況.....	3
III.規模別・業種別.....	9
IV.回答企業のコメント.....	23
V.追加調査結果.....	24

滋賀県商工観光労働部商工政策課

# I. 調査結果



## 【調査概要】

滋賀県では、四半期毎に県内の景気動向の把握を目的として景況調査を実施しております。今期(2021年1～3月期)の調査結果の概要は次のとおりです。

また、滋賀県景況調査報告書については、滋賀県公式ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syouyou/300168.html>

- ・今期の県内企業の景況は、業況、生産、売上、経常利益の各DIはマイナス幅が縮小した。雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。
- ・来期(2021年4～6月期)の見通しについては、生産DIはマイナス幅が縮小し、業況、経常利益、売上の各DIはマイナス幅が拡大する見通し。雇用の水準DIはマイナス幅が拡大する見通し。

## 【調査方法】

①調査期間……………2021年1月下旬～2月上旬

②調査企業数……………県内の事業所(750社)

③調査方法……………郵送アンケート

④回答企業数……………244社(回答率32.5%)

(社)

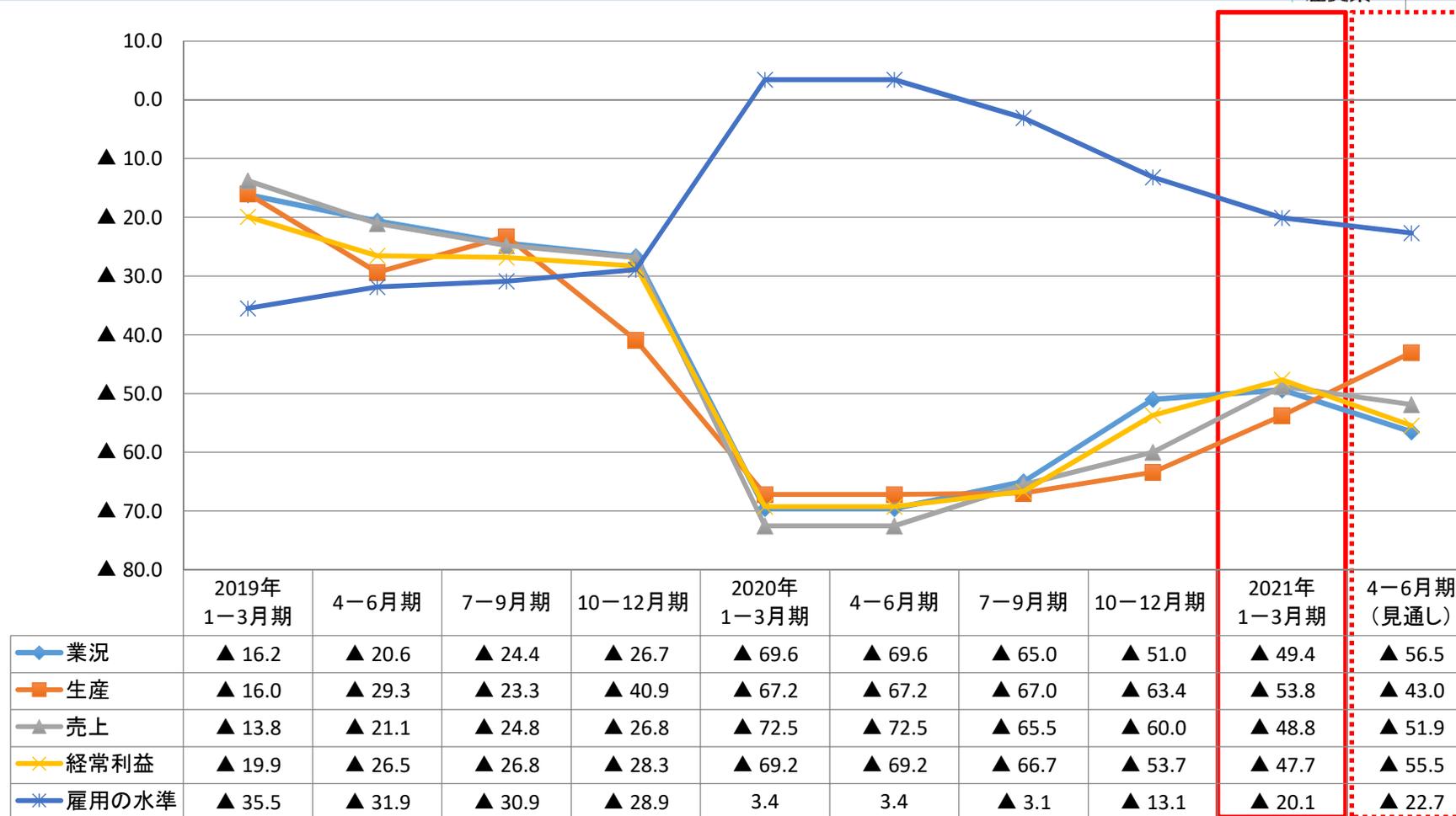
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	17	3	0	5	8	33
中小企業	91	19	9	17	75	211
合計	108	22	9	22	83	244
産業別比率	44.3%	9.0%	3.7%	9.0%	34.0%	

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス):「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から、「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

今期(実績)の業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは前年同期と比較。資金繰りDIは3か月前と比較。採算の水準、引合、雇用の水準の各DIは今期水準の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは3か月後の前年同期と比較。資金繰りDIは3か月後水準の軸を用いて算出。採算の水準、引合、雇用の水準DIは3か月後水準の軸を用いて算出。

## Ⅱ.各種DIの動き(実績)と来期の見通し



今期(2021年1~3月期)の県内企業の景況(前期(2020年10~12月期)との比較)

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DIはマイナス幅が縮小した。
- ・雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。

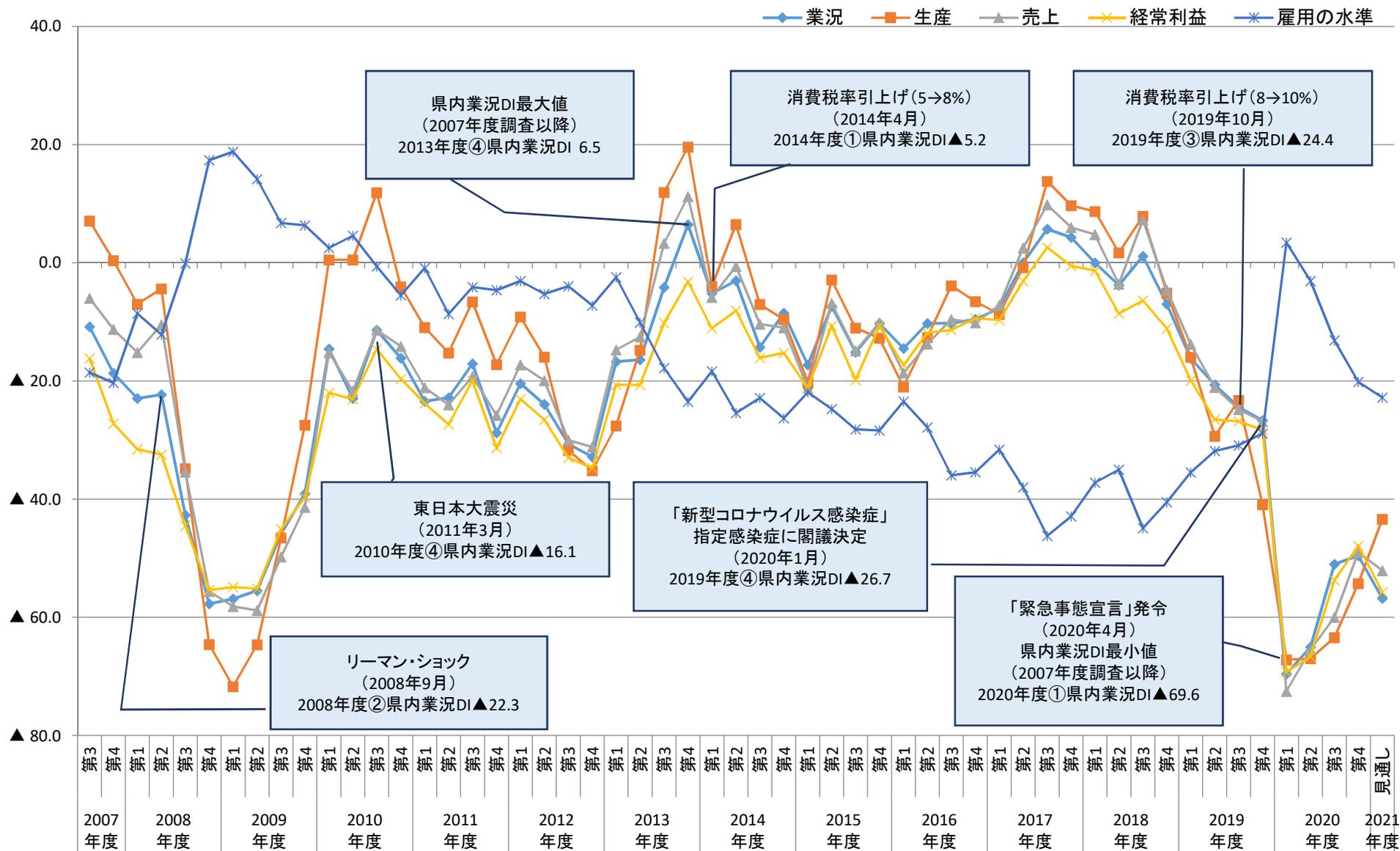
来期(2021年4~6月期)の見通し

- ・生産DIはマイナス幅が縮小し、業況、経常利益、売上の各DIはマイナス幅が拡大する見通し。
- ・雇用の水準DIはマイナス幅が拡大する見通し。

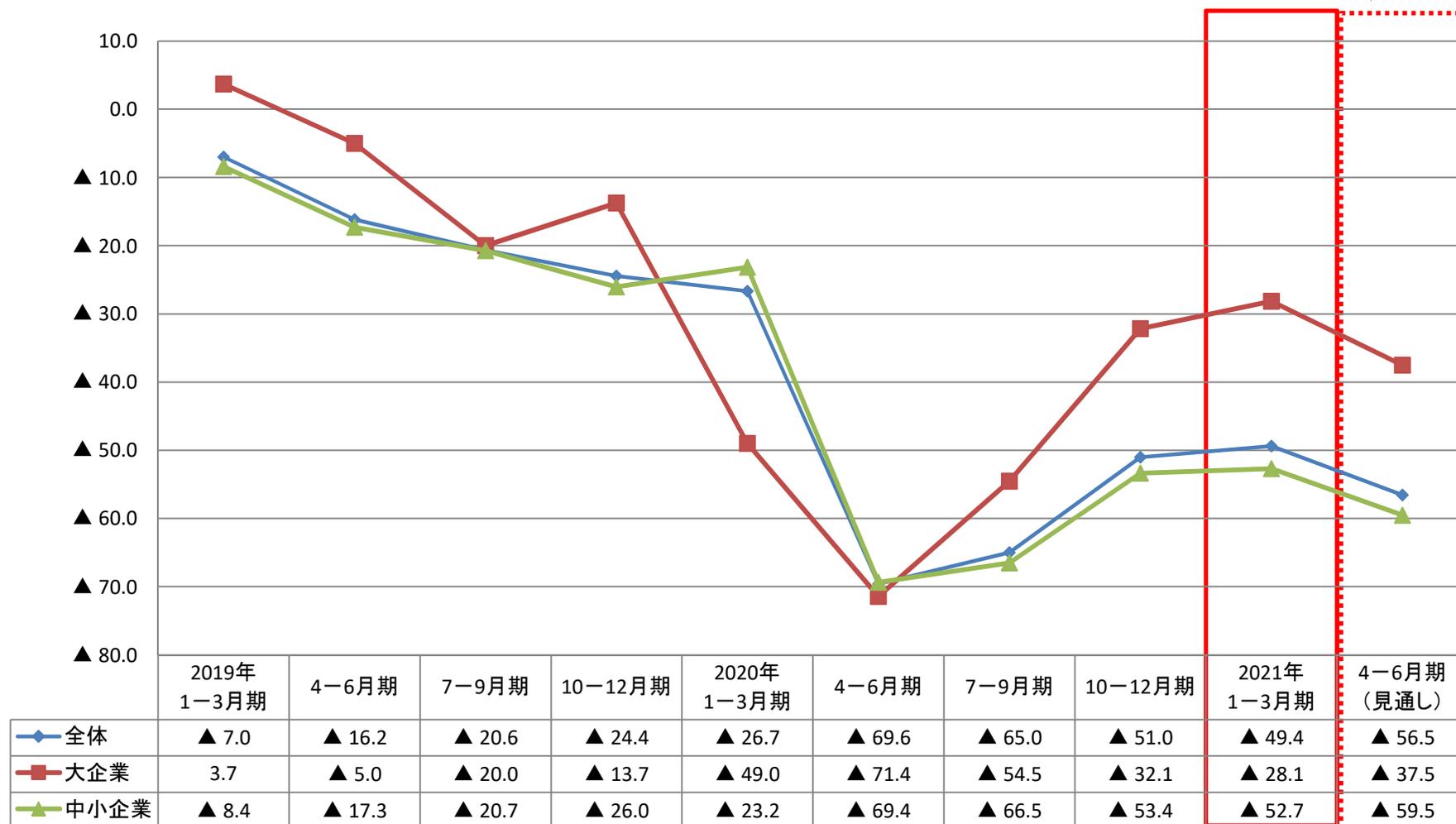


# 【参考】

## Ⅱ.DIの推移:2007年度第3四半期～2020年度第4四半期

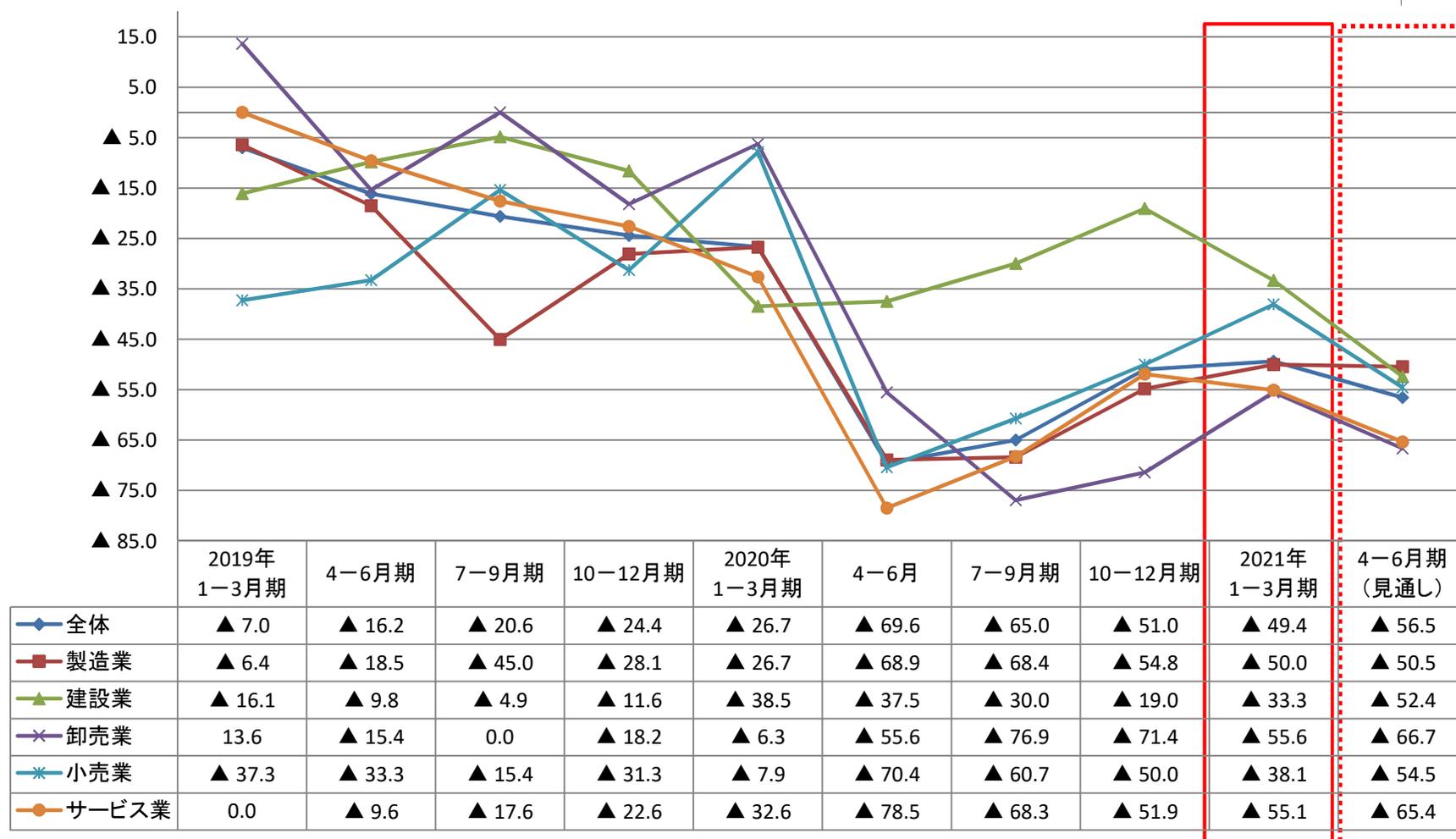


## Ⅱ. 企業規模別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・全体の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・大企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・中小企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## Ⅱ.業種別業況の動き(実績)と来期の見通し



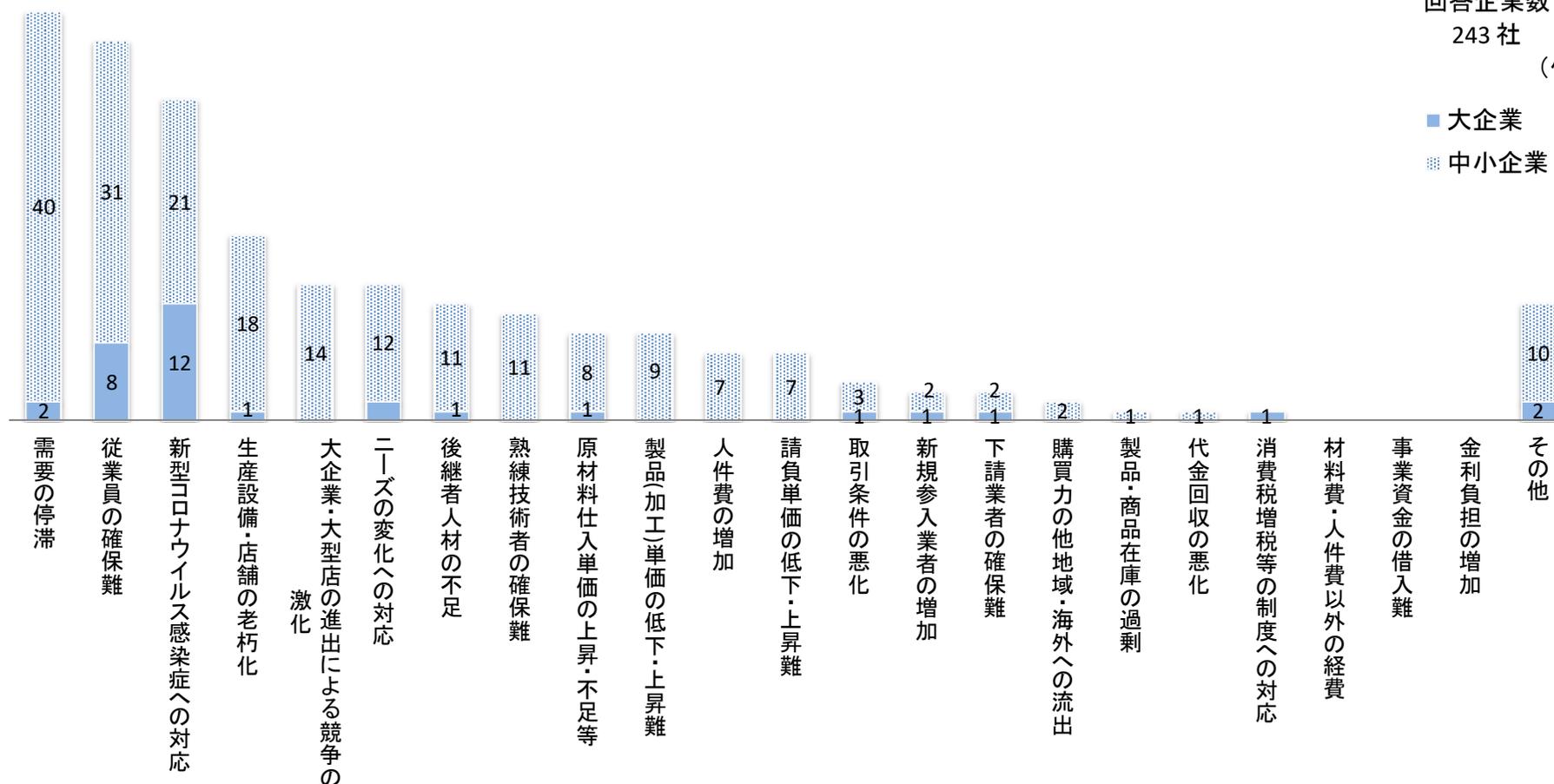
- ・製造業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・建設業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・卸売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・小売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・サービス業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## Ⅱ.経営上の問題点



回答企業数  
243社  
(件)

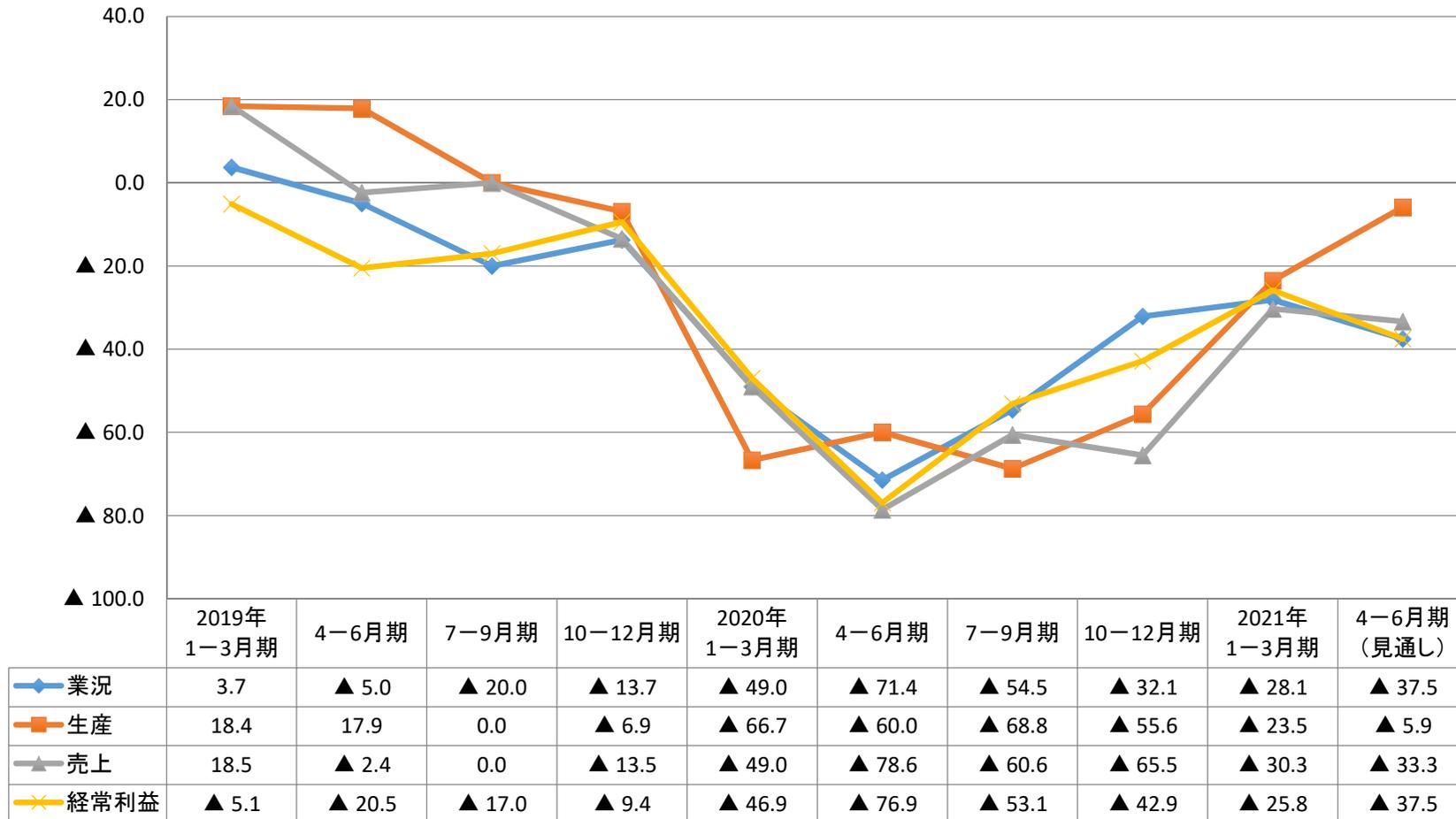
■ 大企業  
■ 中小企業



- ・全体:「需要の停滞」が最多となっており、「従業員の確保難」「新型コロナウイルス感染症への対応」の順となっている。
- ・大企業:「新型コロナウイルス感染症への対応」が最多となっており、「従業員の確保難」「需要の停滞」の順となっている。
- ・中小企業:「需要の停滞」が最多となっており、「従業員の確保難」「新型コロナウイルス感染症への対応」の順となっている。

## Ⅲ.【大企業】①

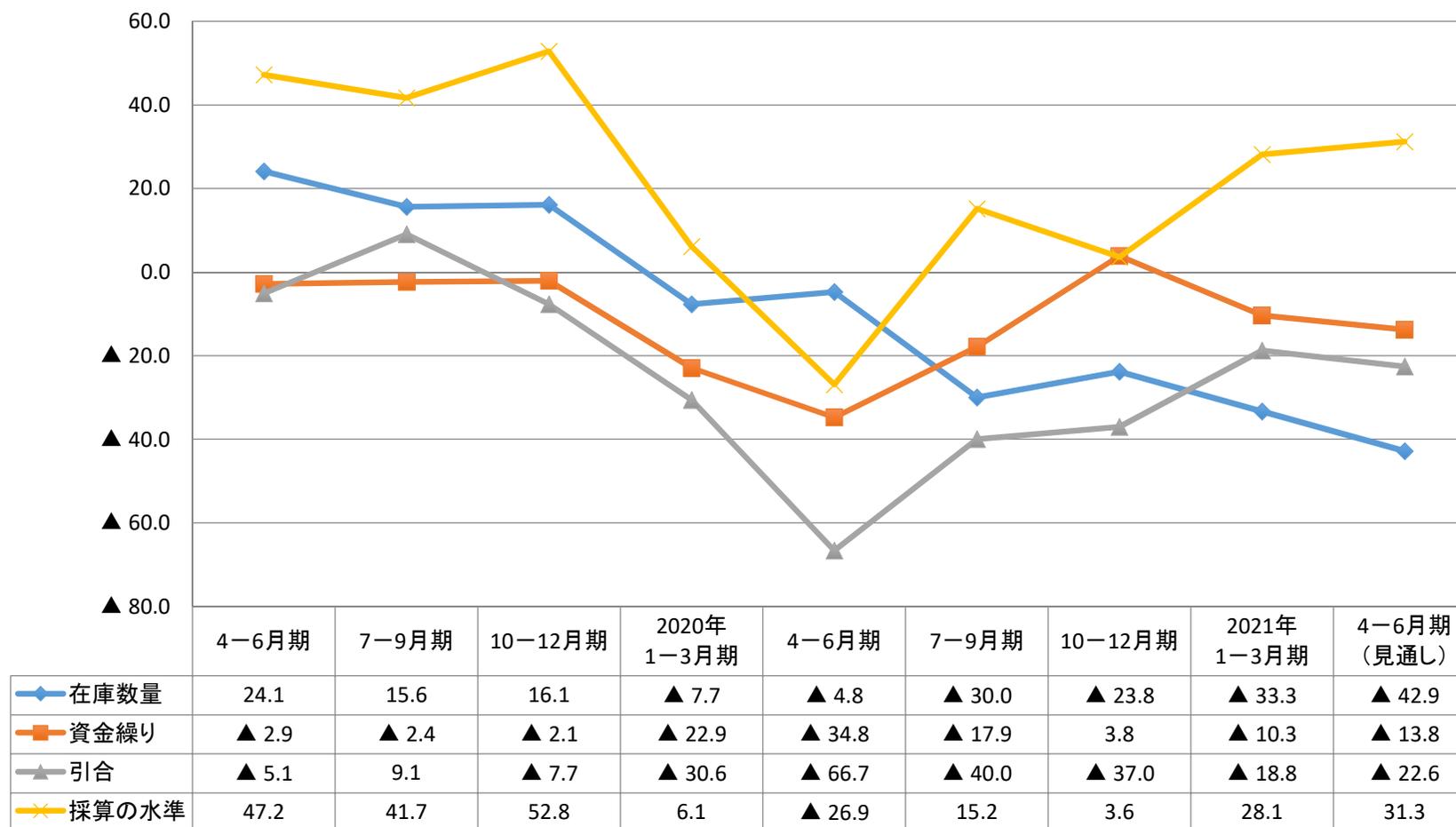
### 業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲28.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲37.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲23.5と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲5.9と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲30.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲33.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲25.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲37.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【大企業】②

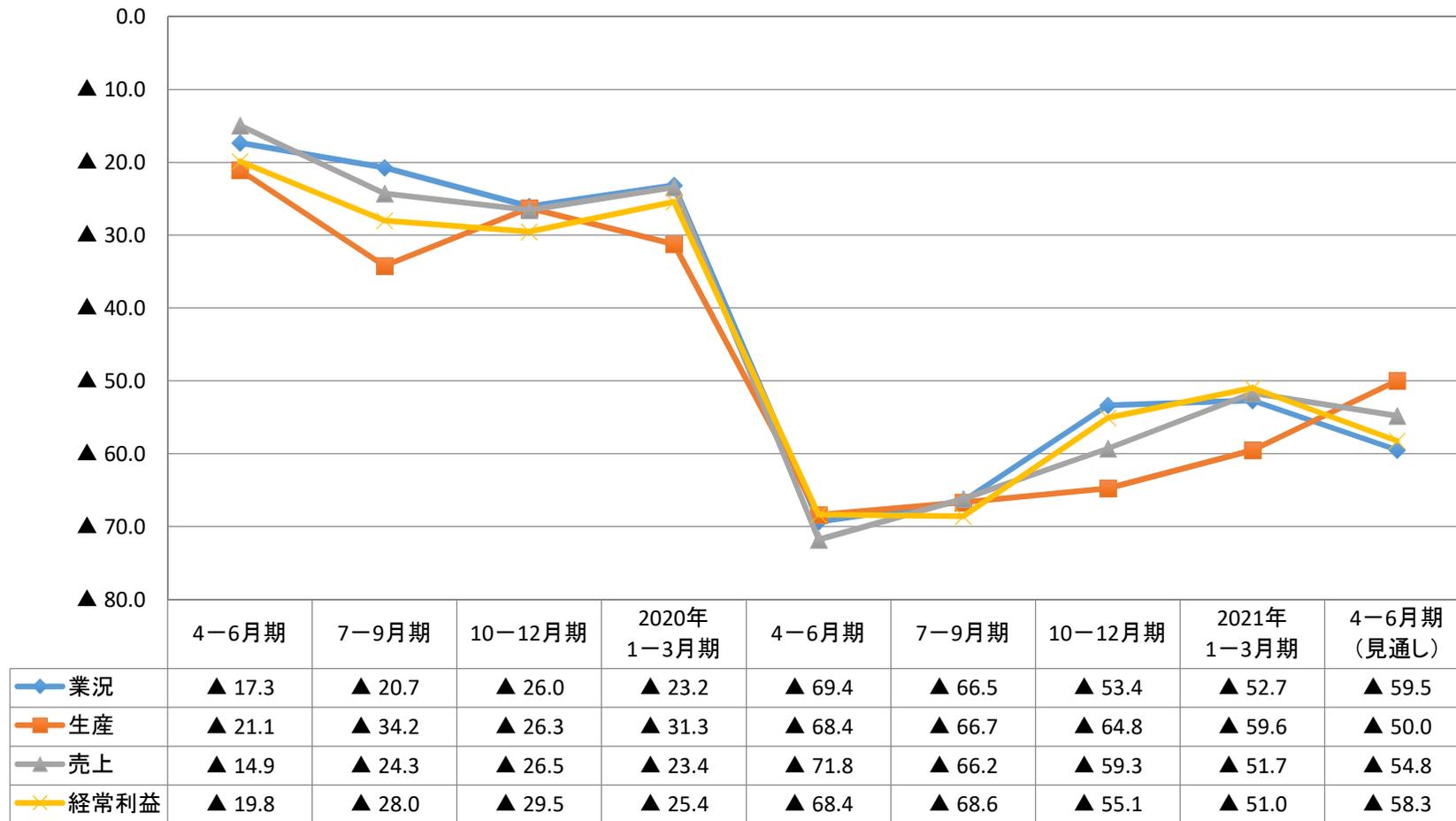
## 在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲33.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲42.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲10.3と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲13.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲18.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲22.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは28.1と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は31.3と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。

## Ⅲ.【中小企業】①

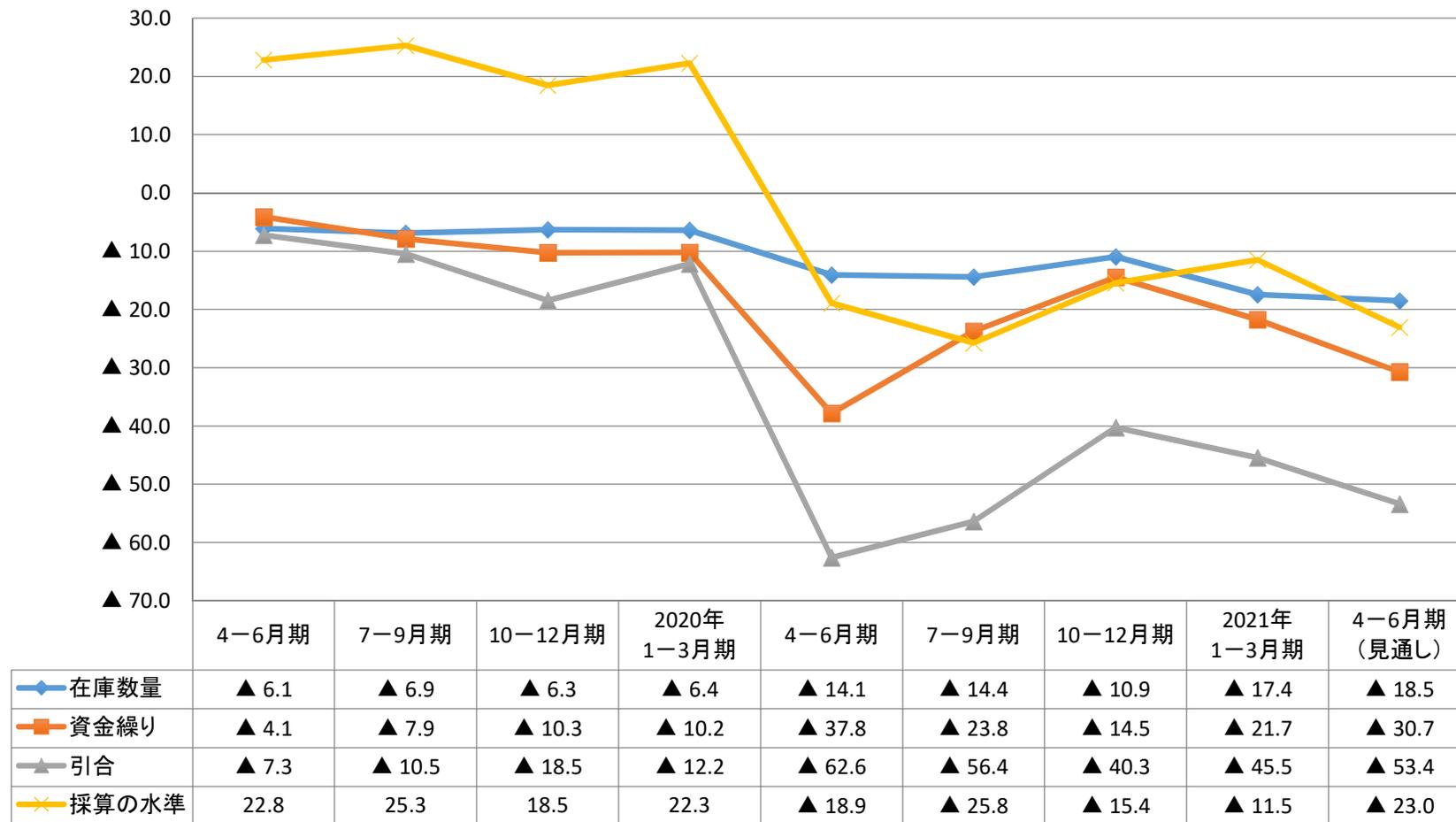
### 業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲52.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲59.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲59.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲50.0と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲51.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲54.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲51.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲58.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【中小企業】②

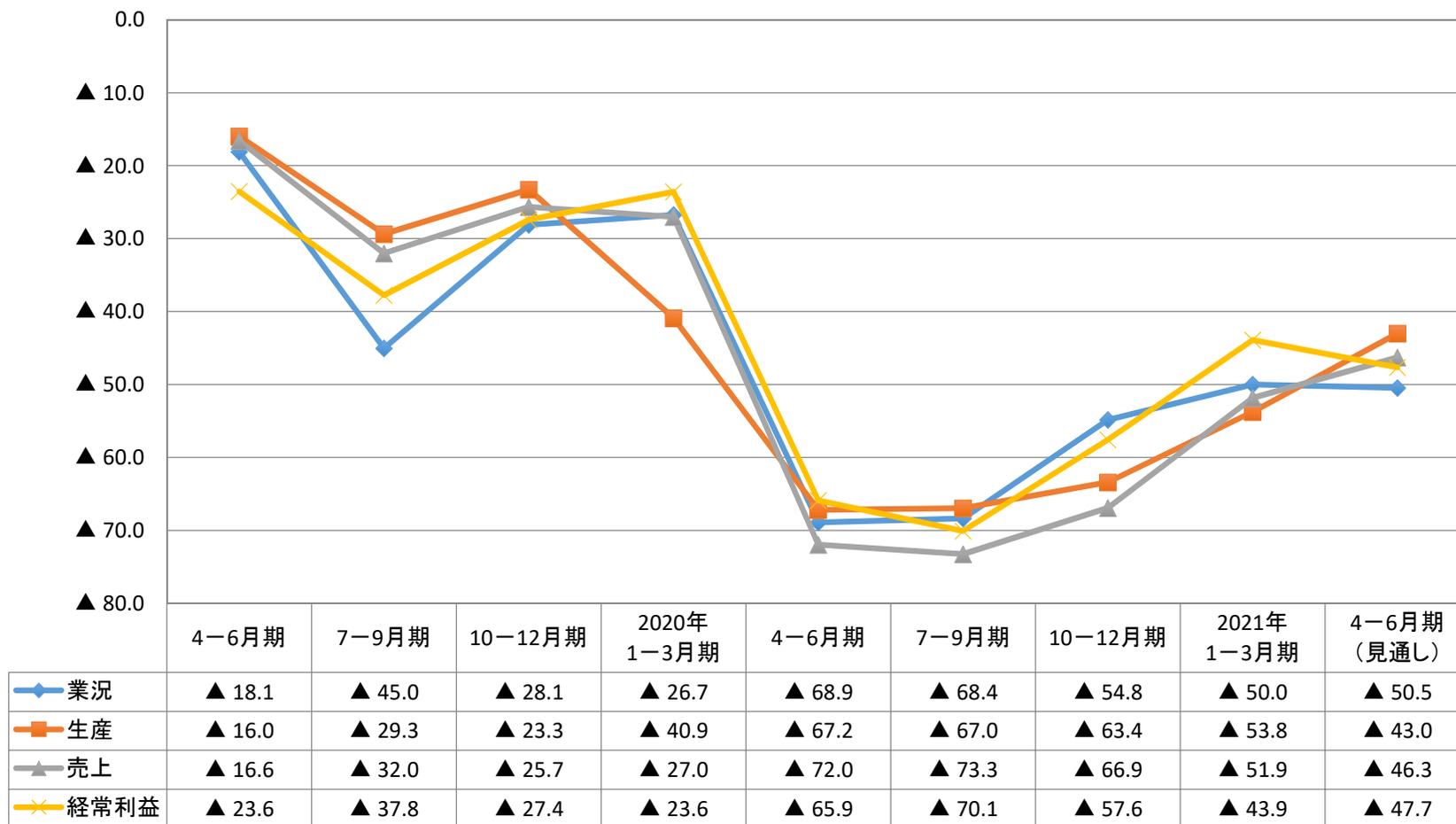
## 在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲17.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲18.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲21.7と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲30.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲45.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲53.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは▲11.5と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲23.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## Ⅲ.【製造業】①

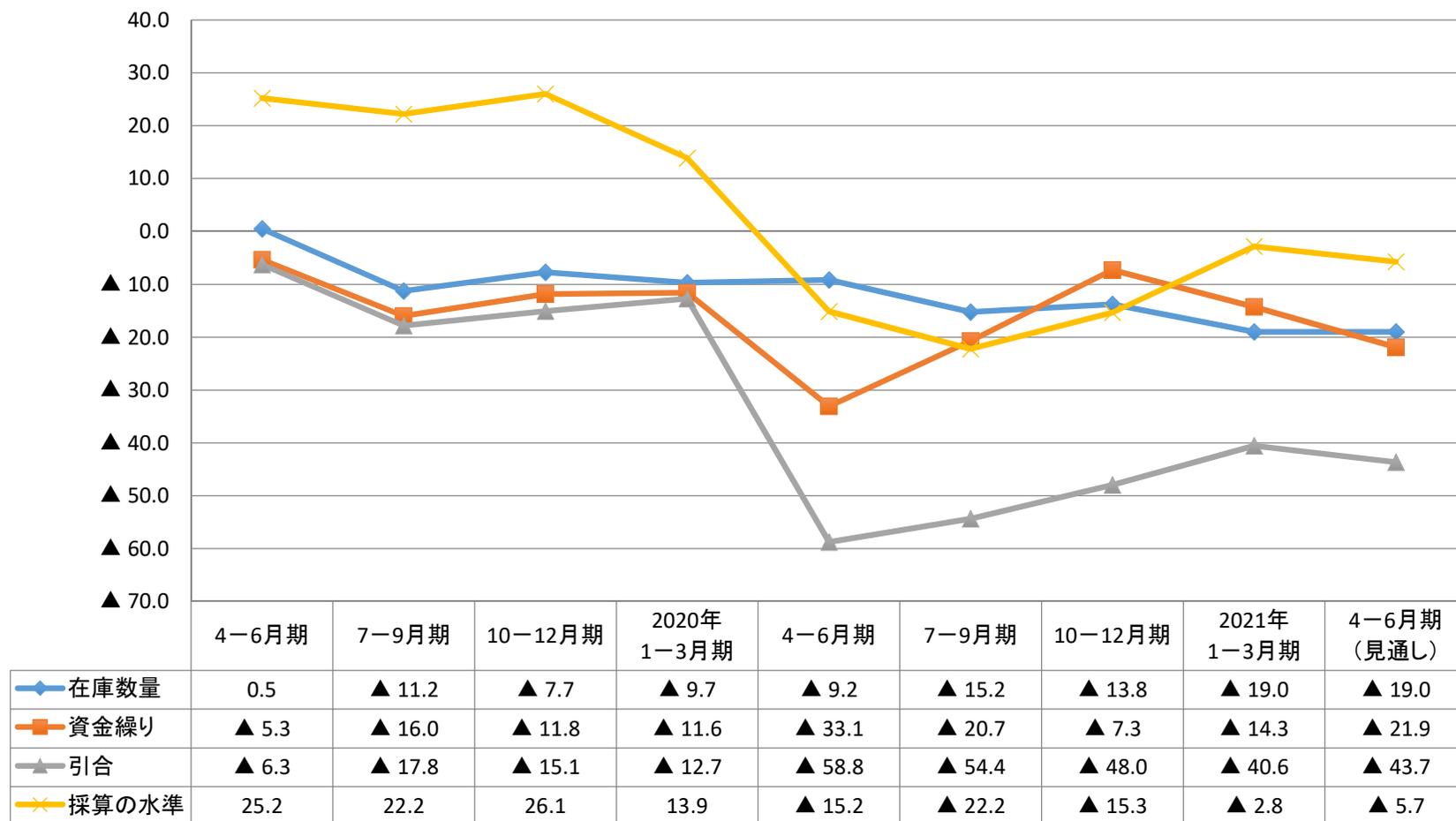
### 業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲50.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲50.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲53.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲43.0と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲51.9と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲46.3と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲43.9と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲47.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【製造業】②

## 在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲19.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲19.0と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・資金繰りDIは▲14.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲21.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲40.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲43.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは▲2.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲5.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## Ⅲ.【建設業】①

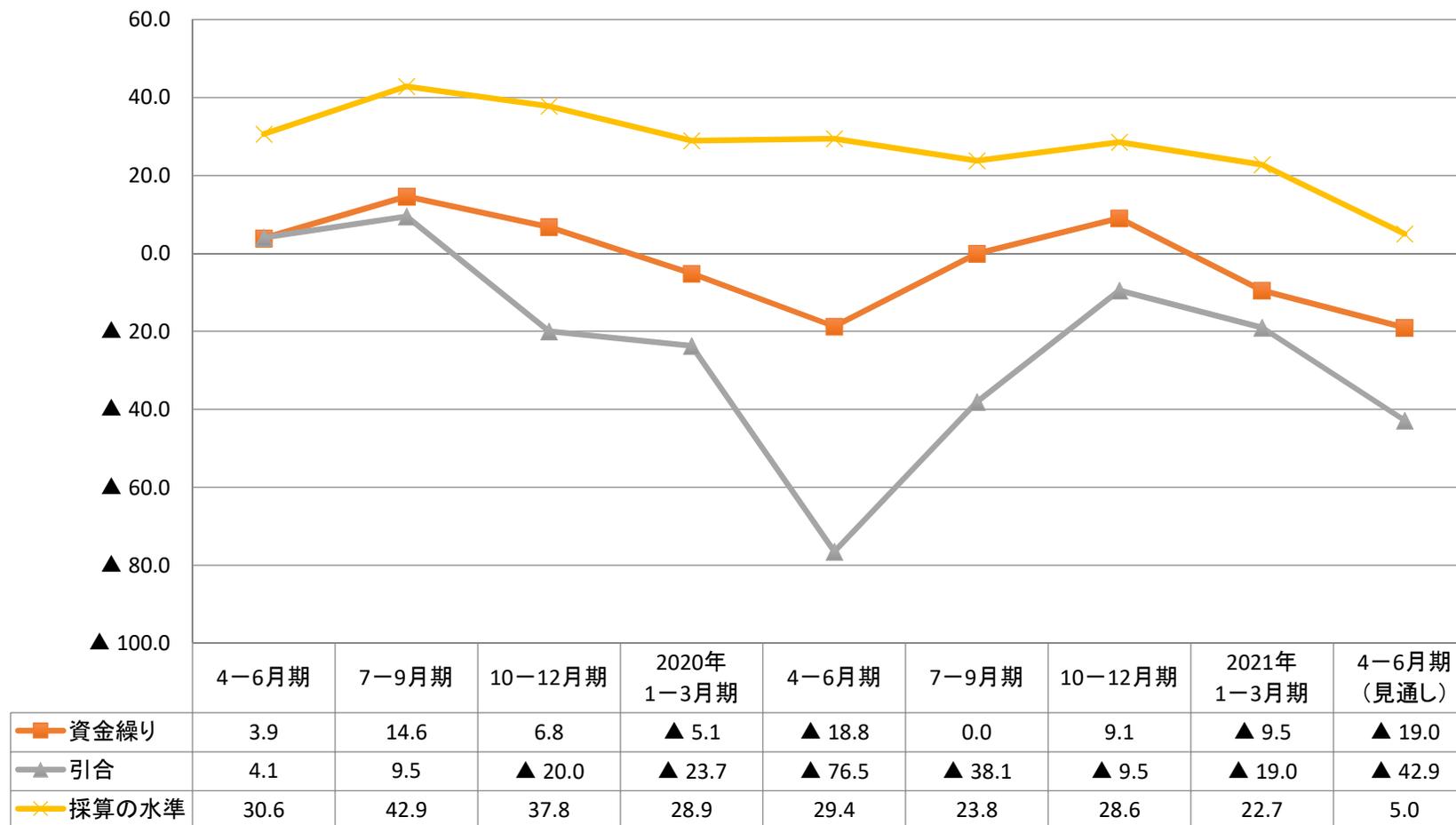
### 業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲33.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲52.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲27.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲36.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲23.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲47.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【建設業】②

## 資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



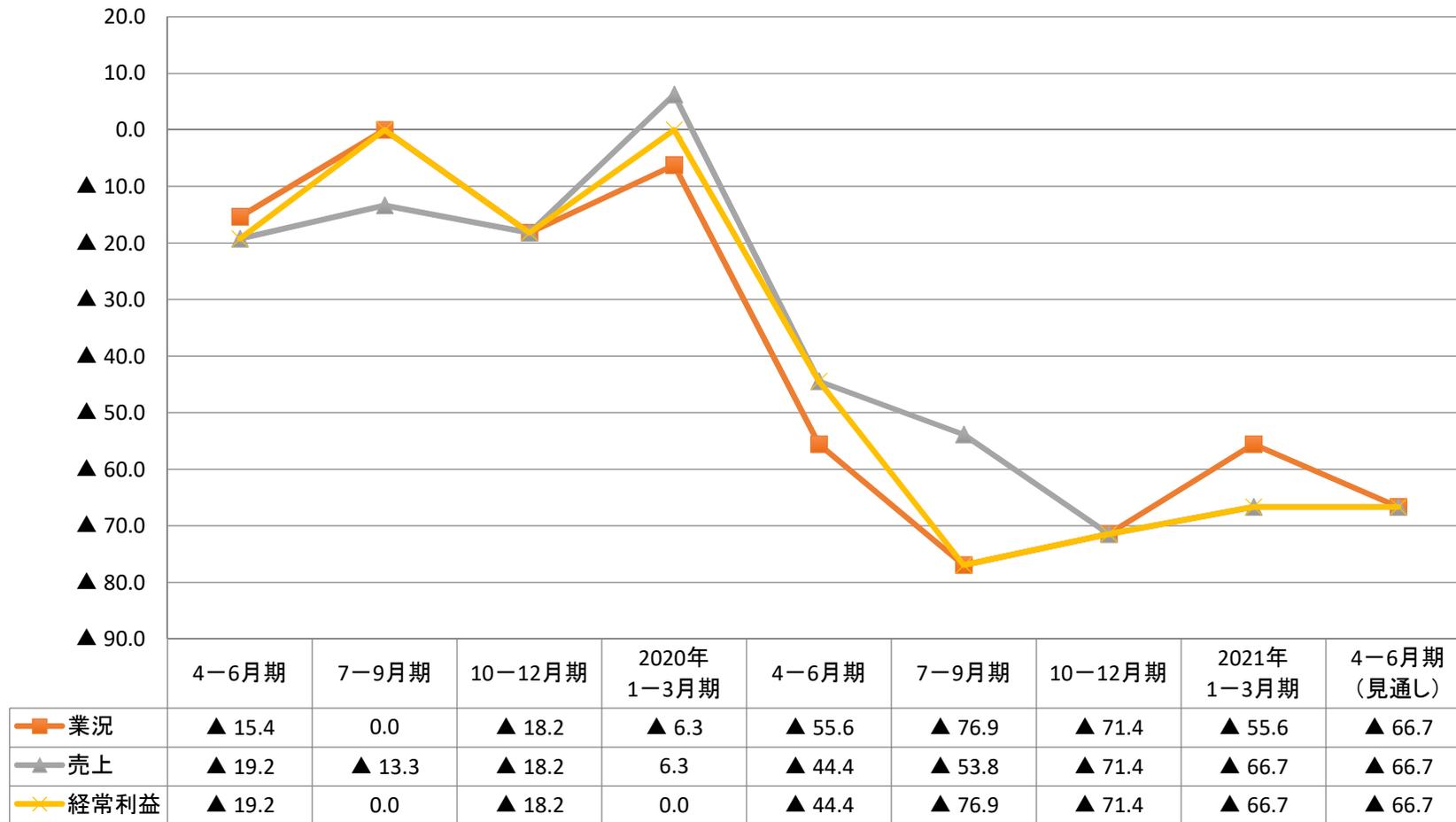
・資金繰りDIは▲9.5と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲19.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

・引合DIは▲19.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲42.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

・採算の水準DIは22.7と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は5.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

## Ⅲ.【卸売業】①

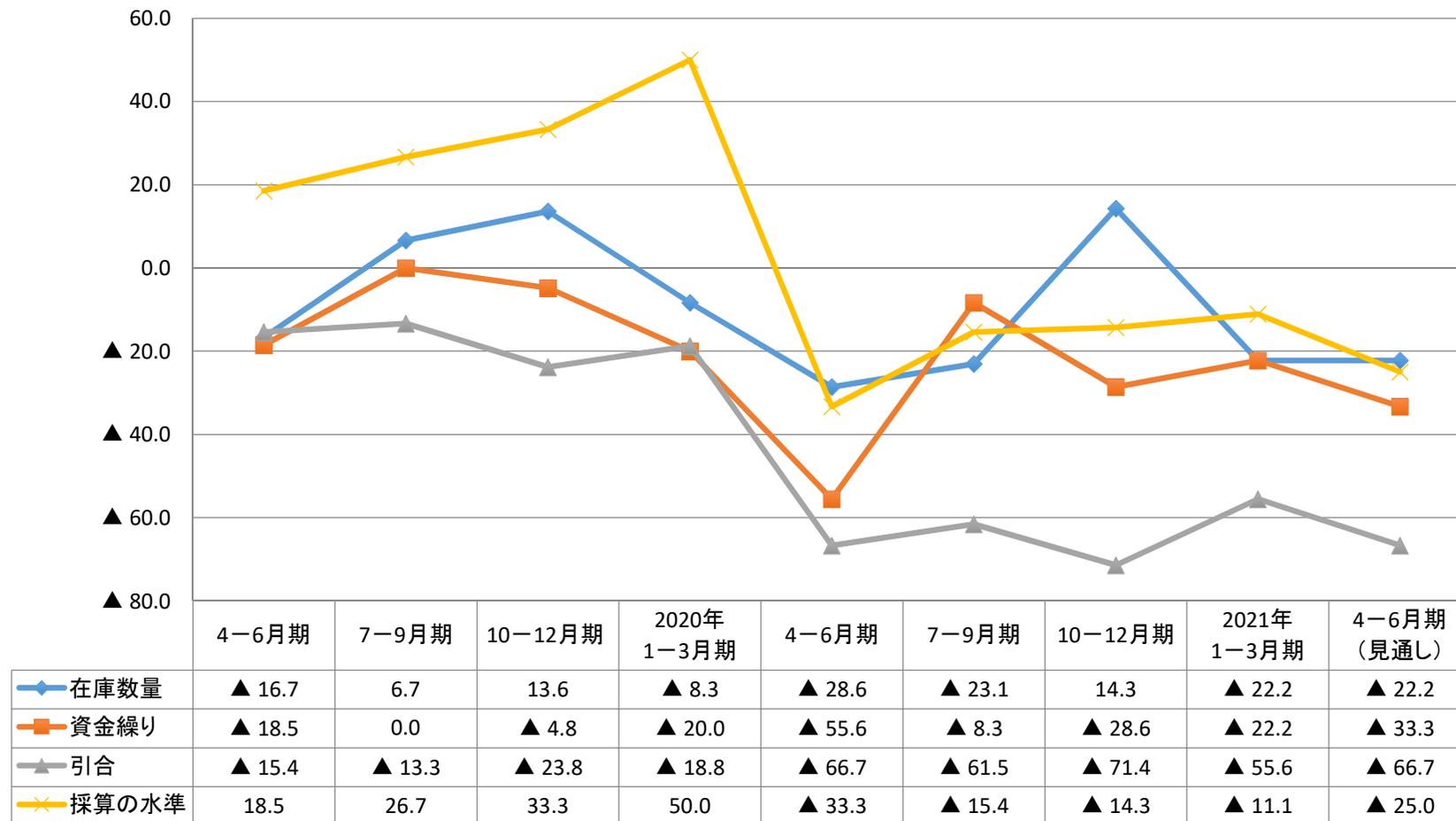
### 業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲55.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲66.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲66.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲66.7と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・経常利益DIは▲66.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲66.7と、今期に比べ変わらない見通し。

### Ⅲ.【卸売業】②

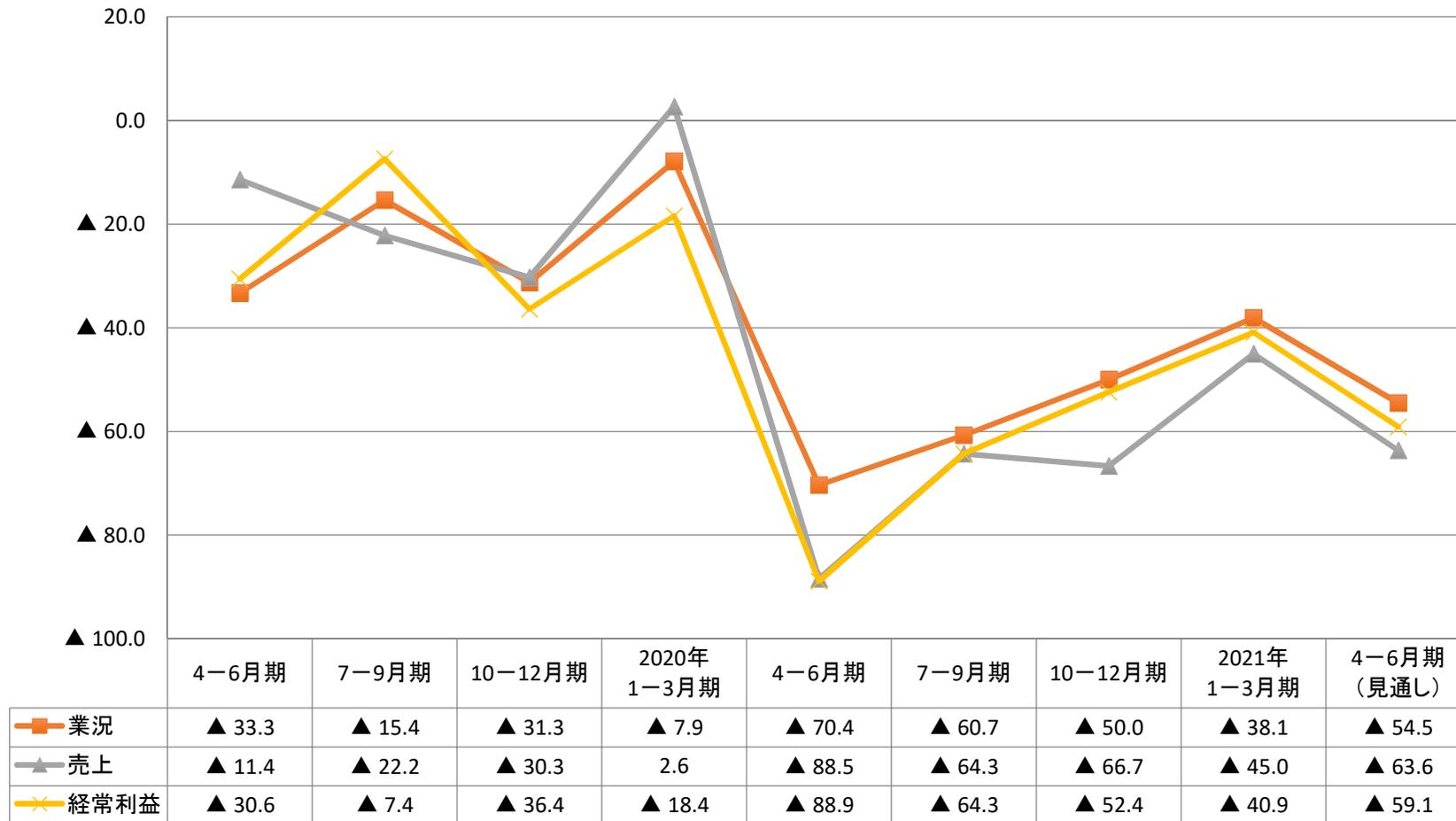
## 在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲22.2と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲22.2と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・資金繰りDIは▲22.2と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲33.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲55.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲66.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは▲11.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲25.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## Ⅲ.【小売業】①

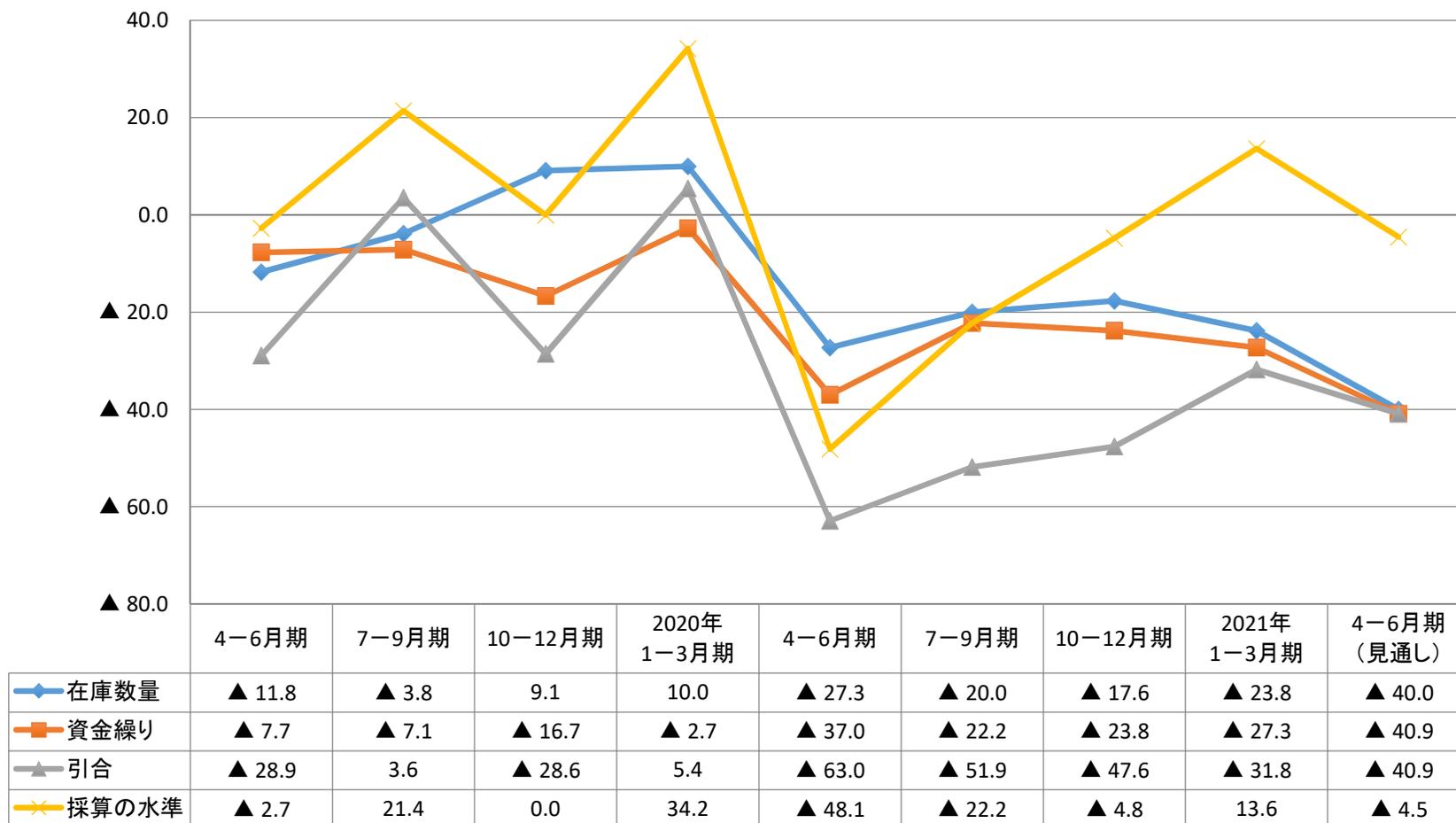
### 業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲38.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲54.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲45.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲63.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲40.9と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲59.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【小売業】②

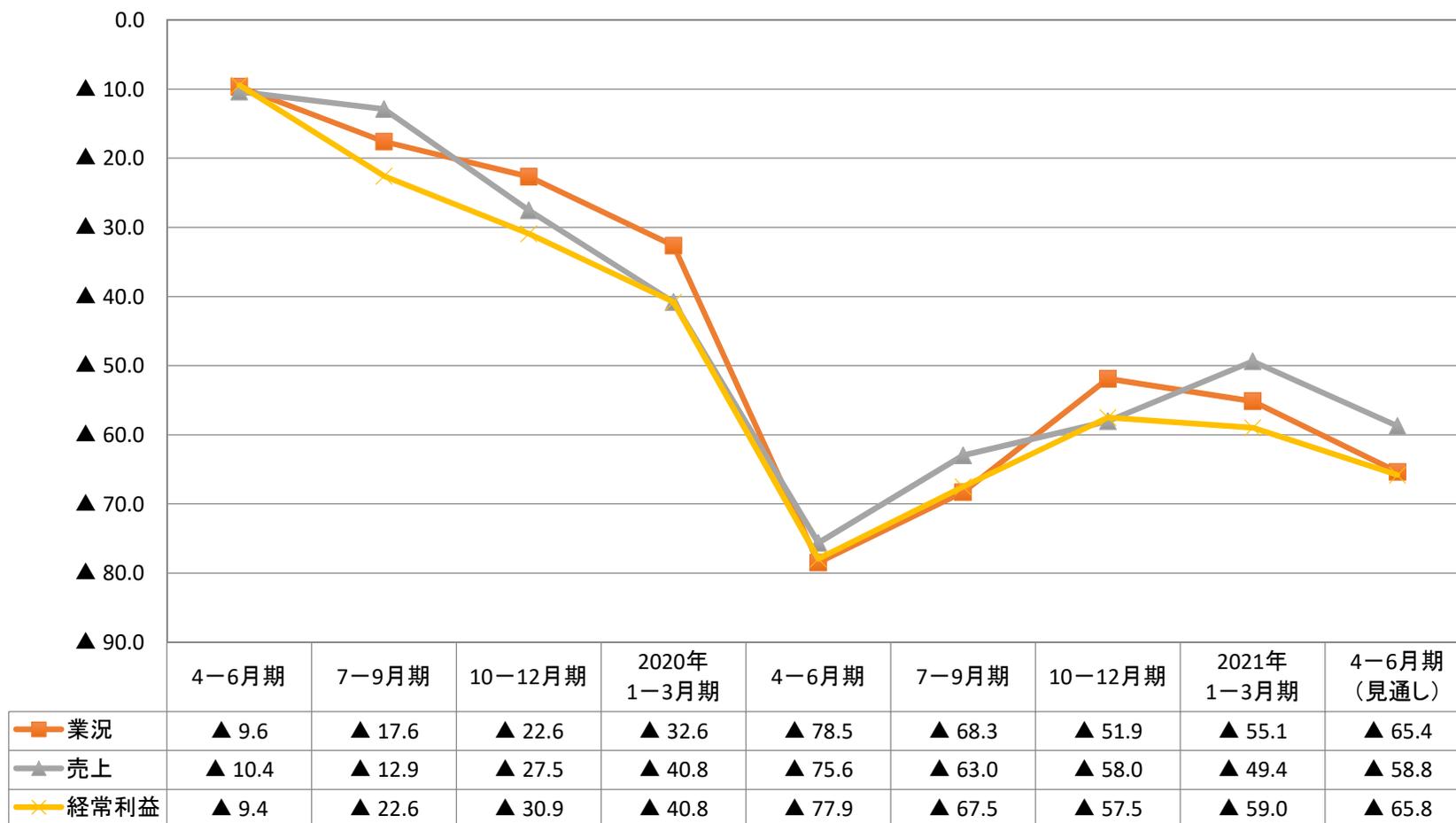
## 在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲23.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲40.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲27.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲40.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲31.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲40.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは13.6と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は▲4.5と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。

## Ⅲ.【サービス業】①

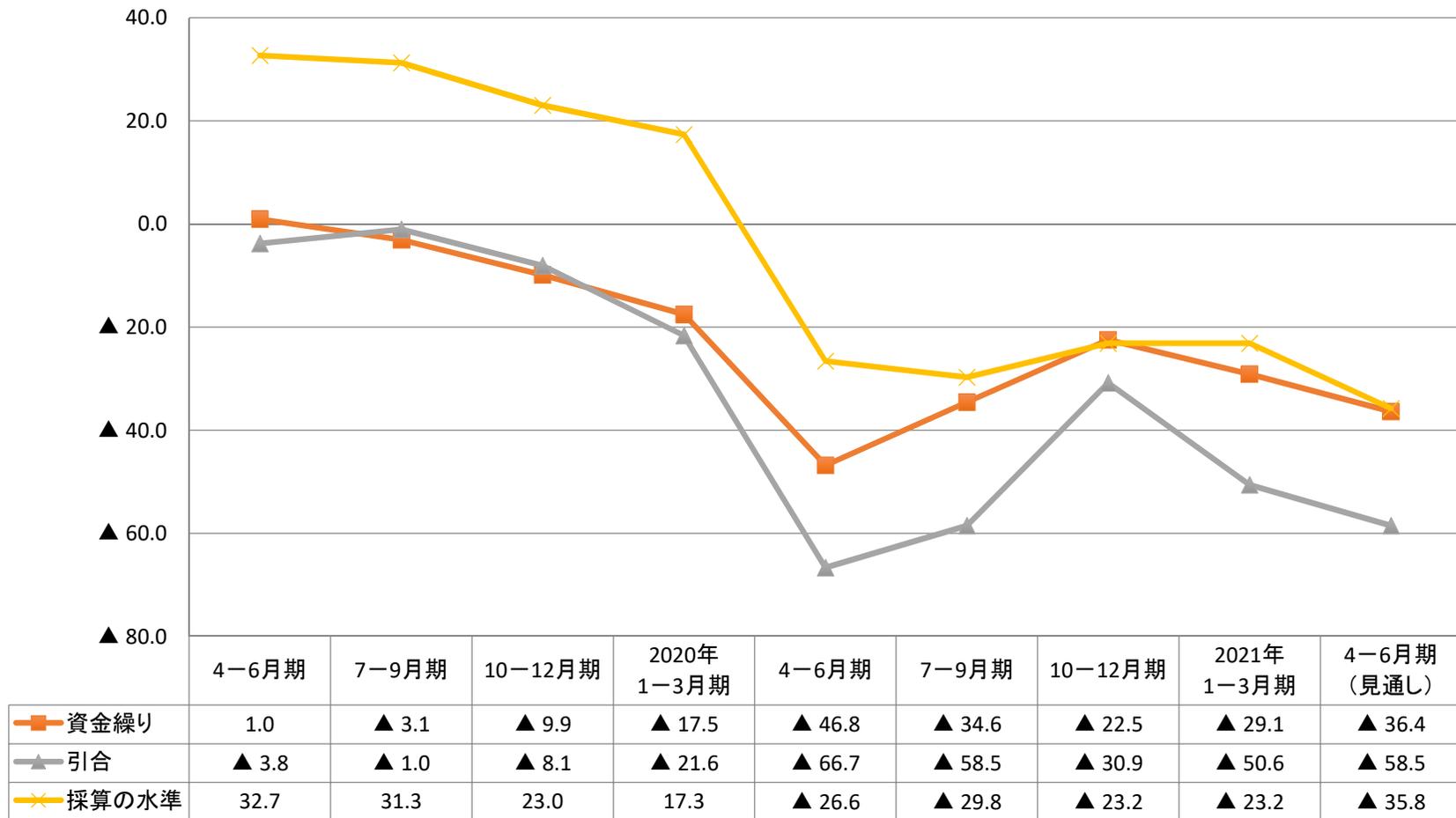
### 業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲55.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲65.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲49.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲58.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲59.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲65.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

### Ⅲ.【サービス業】②

## 資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは▲29.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲36.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲50.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲58.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは▲23.2と、前期に比べ変わらなかった。来期は▲35.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

## IV.回答企業のコメント



### 【プラスの判断をした企業】

- ・新型コロナウイルス感染拡大により生産減少した際に製造工程を見直し、コストダウンを実施。(金属製品製造業)

### 【マイナスの判断をした企業】

- ・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令により、営業自粛、得意先からの受注減少。(金属製品製造業)
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により工事が延期または縮小され需要が停滞、今後の見通しも不透明。(はん用機械器具製造業)
- ・自動車産業の半導体の部品欠品による受注量減が見込まれる。(プラスチック製品製造業)
- ・緊急事態宣言の発令等に拠る需要の減退。(繊維・衣服等卸売業)
- ・自動車関連産業が回復してきたので今後に期待。(機械器具卸売業)
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で需要が無くなった。(技術サービス業)
- ・新型コロナウイルス感染症再拡大により、緊急事態宣言が出され身動きが取れず悪化している。(道路貨物運送業)
- ・受注が大幅減少し、業績が悪化している。(道路貨物運送業)
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、派遣先の業績不振で派遣打ち切りの可能性も否めない。(職業紹介・労働者派遣業)

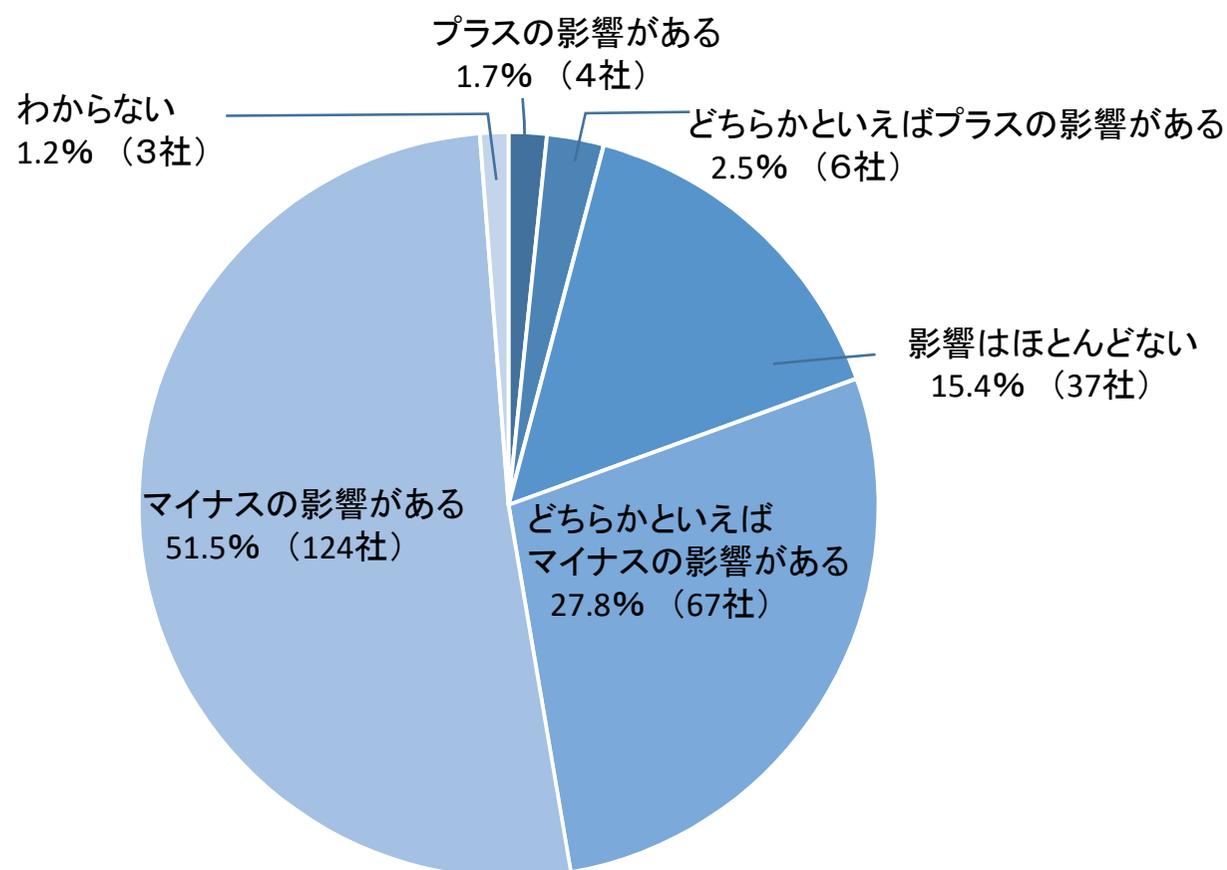
### 【その他】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で製品により増減はあるが概ね不変。(パルプ・紙・紙加工品製造業)
- ・半導体不足と中国景気悪化の影響。(非鉄金属製造業)
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況により、今後設備投資が抑えられる可能性があり弱含み。(機械器具卸売業)

## V.新型コロナウイルス感染症の事業活動への影響について

新型コロナウイルス感染症の事業活動への影響について、県内企業に対し、事業活動への影響を尋ねたところ（n=241）、「マイナスの影響がある」51.5%（124社）が最も多く、「どちらかといえばマイナスの影響がある」27.8%（67社）と合わせると約8割が事業活動にマイナスの影響があると回答する結果となった。

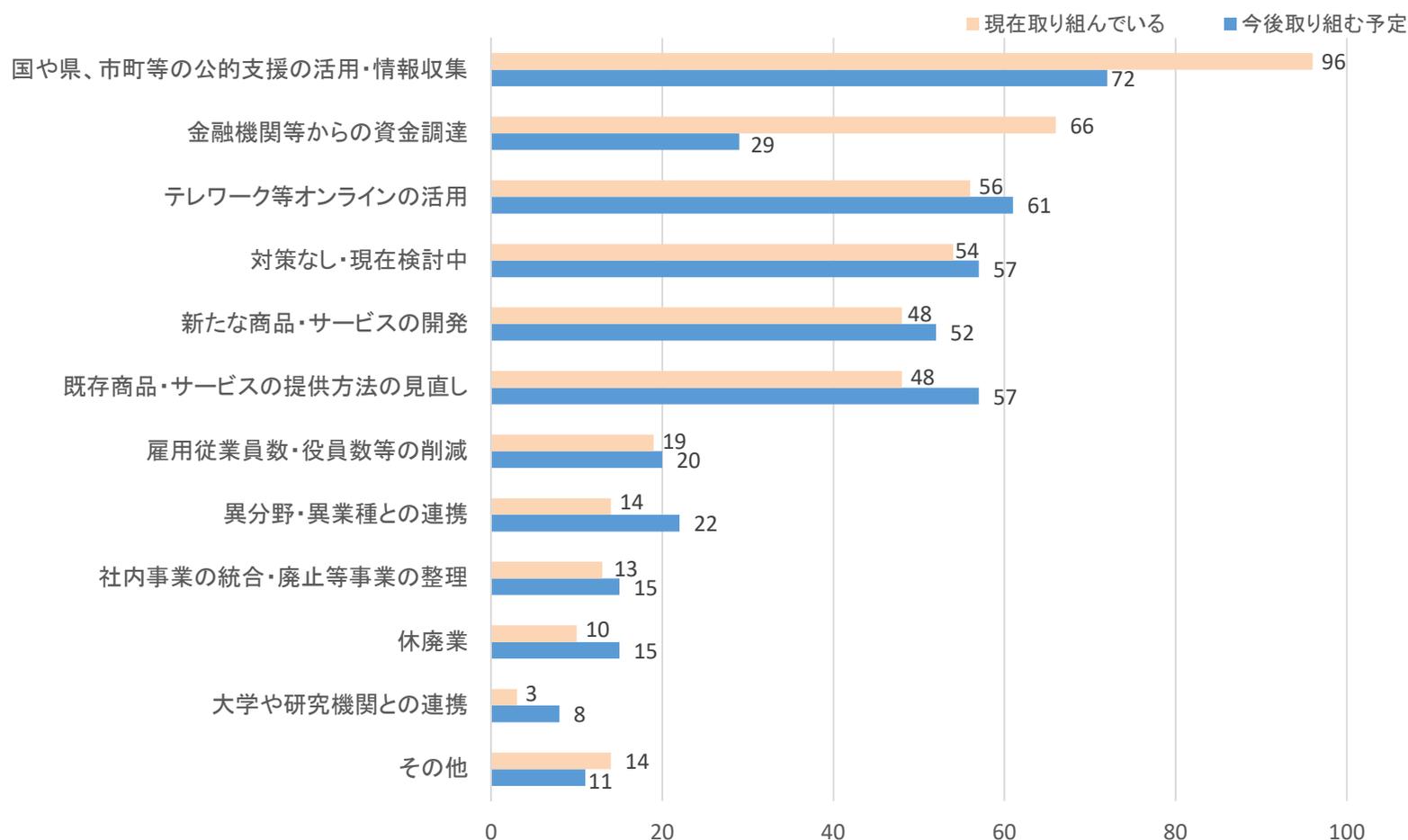
また、「プラスの影響がある」1.7%（4社）、「どちらかといえばプラスの影響がある」2.5%（6社）となっており、「影響はほとんどない」は15.4%（37社）という結果となった。



# V.新型コロナウイルス感染症の事業活動への影響について



新型コロナウイルス感染再拡大により、現在取り組んでいるおよび今後取り組む予定について尋ねたところ(複数選択)、現在取り組んでいる内容については、「国や県、市町等の公的支援の活用・情報収集」(96社)が最も多く、次いで「金融機関等からの資金調達」(66社)、「テレワーク等オンラインの活用」(56社)となった。また、今後取り組む予定の内容については、「国や県、市町等の公的支援の活用・情報収集」(72社)が最も多く、次いで「テレワーク等オンラインの活用」(61社)、「既存商品・サービスの提供方法の見直し」(57社)となった。



## V.新型コロナウイルス感染症の事業活動への影響について



新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業活動への影響がいつまで続くと予想しているかを尋ねたところ(n=239社)、「1年～2年」31.8%(76社)と回答した企業が最も多く、次いで「わからない」28.5%(68社)、「2年～3年」25.9%(62社)の順となった。

